三重短期大学附属図書館

MIETAN CINEMA FES

October－November 2021

こんな本読んでみて

take free No. 91

目　次

Mietan Cinema Fes　1

Book design の 世界 vol.21　10

ちょこちょこ日記 #31　12

MIETAN CINEMA FES

『イラストでわかる映画の歴史』

著　者／アダム･オールサッチ･ボードマン

訳　者／細谷由依子

出版社／フィルムアート社

出版年／2018年

請求記号／778.2||B 61

ポップなイラストが満載で、楽しみながら映画の歴史に触れられる一冊。物語を伝えるために初めて光が使われた「影絵」、モノクロからカラーへ、そして最新技術まで、映画がどのように作られ、どのように変化してきたかが分かります。映画に関わる様々な人の姿も見えてきます。

『映画が教えてくれること。』

出版社／マガジンハウス

出版年／2018年

請求記号／778.2||Ma 29

表紙の写真は、映画『パリ，テキサス』のナスターシャ・キンスキーさん。チャーミングな表情に心を掴まれます。映画が教えてくれる遠い国の景色、身近な風景に潜む美しさ、ファッションやトレンド、そして生き方。いろいろな視点で映画を楽しめることを教えてくれる一冊です。

『僕の好きな映画。』

出版社／マガジンハウス

出版年／2018年

請求記号／778.04||Ma 29

こちらは『E.T.』の印象的なワンシーンが表紙に使われています。311本の映画がつまった映画ガイド。観たい映画がたくさん見つかります。また、観たことのある映画でも、そんな見方があったんだと新しい発見があります。あなたの好きな映画は何ですか？

『３６６日 映画の名言』

選・文／品川亮

出版社／三才ブックス

出版年／2020年

請求記号／778.04||Sh 58

1日1セリフ、心温まる言葉からガツンとくる言葉まで、366の言葉がつまっています。毎日の自分に語りかけてくる一冊です。映画のどんなシーンの台詞なのかが気になって、映画も観てみたくなります。

『ココロに響く映画の名セリフ』

著　者／山下俊樹

絵／studio papel

出版社／雷鳥社

出版年／2019年

請求記号／778.04||Y 44

映画の中に現れる「キラリと輝く名言」や「心に刺さる深い言葉」。66の映画から心に響くセリフを紹介し、独自の解釈でさらに深く読み解きます。英文対訳も掲載されているので、英語と日本語の両方でセリフの奥深さを味わうことができます。

『映画の間取り』

著　者／WOWOW
「映画の間取り」編集部
出版社／扶桑社
出版年／2016年
請求記号／778.2||w 91

「ここは、映画に登場する物件を扱う不動産屋です。」一級建築士監修のもと映画の間取りが紹介された一冊。この家はどうなっているんだろうと気になっていた間取りがのぞけます。どの間取りに住んでみたいか考えるのが楽しいです。映画の新しい楽しみ方を知りました。

『キネマの神様』

著　者／原田マハ
出版社／文藝春秋
出版年／2011年
請求記号／913.6||H 32

映画好きの父・ゴウと娘の歩。映画をきっかけに家族に起こった奇跡の物語。最初から最後まで映画への愛がぎっしりとつまった作品です。2021年8月に公開された映画の原作です。【監督・脚本：山田洋次　主演：沢田研二・菅田将暉】

『世界・夢の映画旅行』

映画選定／Filmarks

編著者／パイインターナショナル

出版社／パイインターナショナル

出版年／2020年

請求記号／290.87||F 26

映画を観ている時「いつか行ってみたい」と憧れる景色に出会ったことはありませんか？この本では、55本の名作映画の風景が紹介されています。本を開くと映画の世界に浸る旅のはじまりです。名シーンや世界観がよみがえります。

『そして映画館はつづく』

編　者／フィルムアート社

出版社／フィルムアート社

出版年／2020年

請求記号／778.09||F 27

「あなたにとって映画館とはどんな場所ですか？」全国の映画館主や映画関係者が語る、映画と映画館のこれまでとこれから。「映画館で映画を見る」ということを考える一冊です。

Book design の世界 vol.21

片岡　忠彦さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第21回目は、片岡忠彦さんのブックデザインをご紹介します。

今回は、片岡忠彦さんのブックデザインをご紹介します。これまでに片岡さんが装丁を手掛けられた数多くの本の中から、映画の原作となった本のデザインをご紹介します。

イラストレーション：カスヤナガト

初めにご紹介するのは**『植物図鑑』**(有川浩著／角川書店／2009年／913.6||A　71)です。カスヤナガトさんのイラストがストーリーへの期待感を高めます。小説内に出てくる植物も描かれているので、じっくりながめたくなる装丁です。【映画化作品】監督：三木康一郎　主演：岩田剛典・高畑充希　2016年公開

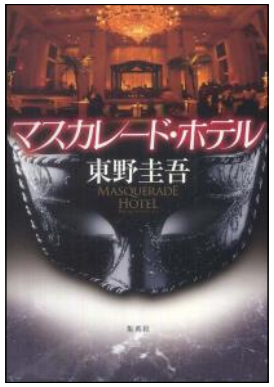
イラストレーション：ウチダヒロコ

『県庁おもてなし課』(有川浩著／角川書店／2011年／913.6||A　71)は、高知県庁に実在する「おもてなし課」を舞台にした作品です。ウチダヒロコさんのイラストが使われていて、高知の美しい風景の中に飛び込んだように感じられるデザインです。　【映画化作品】監督：三宅喜重　主演：錦戸亮　2013年公開

続いて**『告白』**(湊かなえ著／双葉社／2008年／913.6||Mi　39)は、中学校を舞台にしたミステリー作品です。机と椅子のまわりに漂う緊迫した空気が迫ってくるような装丁です。　【映画化作品】監督：中島哲也　主演：松たか子　2010年公開

写真：Masaaki Toyoura

『ナラタージュ』(島本理生著／角川書店／2005年／913.6||Sh　38)。表情の見えない女性の姿と背景の緑色が美しい写真が使われ、目を惹きつけられます。どこか切なさを感じるデザインです。【映画化作品】監督：　行定勲　主演：松本潤　2017年公開



写真：HIROYUKI MATSUMOTO
Jeremy Woodhouse

最後に、**『マスカレード・ホテル』**(東野圭吾著／集英社／2011年／913.6||H 55)をご紹介します。ホテルや夜景の煌びやかな写真が使われ、小説の舞台となるホテルへ足を踏み入れたように感じられる、高級感のある装丁です。　【映画化作品】　監督：鈴木雅之　主演：木村拓哉　2019年公開

今回は、片岡忠彦さんが手掛けられた本の中から、映画の原作本をご紹介しました。本を読んでから映画を見るか、映画を見てから本を読むか。どちらが先でも、心躍るようなブックデザインばかりでした。

次回もお楽しみに。

ちょこちょこ日記 #31 「シネマ」

今回の「こんな本読んでみて」は、【Mietan Cinema Fes】というテーマでした。

よく耳にする「シネマ」という言葉を調べてみました。

「**シネマ**【cinéma　フランス】(cinématographeの略)　映画。映画館。キネマ。」（『広辞苑 第7版』 新村出編／岩波書店）

「シネマ」は、映画だけでなく映画館もあらわす言葉でした。そして、元々はフランス語なのですね。

タイトルに「シネマ」が付いている本をご紹介します。

『流星シネマ』(吉田篤弘著／角川春樹事務所／2020年／913.6||Y 86）です。その昔、川に鯨が迷い込んできたことがある町で暮らす人々の物語。雨のしっとりした気配を感じながら、ゆったりとした時間を過ごせる一冊です。どんな「シネマ」なのか、ぜひ読んでみてください。

こんな本読んでみて　No.91

２０２１年１０月１日　発行

編集･発行　三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

http://www.library.tsu-cc.ac.jp/